

2023 年度実践的研究助成（1 年助成）

研究成果抄録

『養護教諭のスキルラダーを活用した  
オンライン研修システムの開発』

代表研究者；中村 富美子（沼津市立大岡中学校 養護教諭）

共同研究者；荒木田 美香子（川崎市立看護大学 副学長）

内山 有子（東洋大学 教授）

加藤 恵美（静岡市立清水庵原小学校 養護教諭）

齋藤 朱美（東京都立深川高等学校

主任養護教諭）

芝 裕介（宮崎県立延岡しろやま支援学校

高千穂校 養護教諭）

高橋 佐和子（神奈川県立保健福祉大学 准教授）

# 養護教諭のスキルラダーを活用したオンライン研修システムの開発

## 1. 研究課題

学校現場で働く養護教諭の職務は、新型コロナウイルス感染症予防、アレルギー疾患や慢性疾患への対応、いじめや不登校、薬物乱用や自傷行為なども含めたメンタルヘルスの問題、更には突発的な事故や災害における救急対応など多岐に渡るため、高い能力が求められている。学校現場では唯一の保健医療の専門職であるため、その実践能力の向上は子どもの健全育成に直結する課題である。しかし、養護教諭の研修体制は十分とは言えない<sup>1)</sup>。各学校にほぼ一人配置であるため、業務の代替えが困難なことから研修に参加しにくいという現状がある。それに加え、身近にロールモデルがいないことから、経験年数が増えても、自分の仕事を見直す機会がなく、自己流に陥りやすいという課題がある。

研究者は、養護教諭のスキルラダー（以下、スキルラダー）を開発した。スキルラダーとは、養護教諭の職務（11業務）に関する知識や技術（スキル）を成長段階別（ラダー：新人・中堅・ベテラン・熟練）に示すことにより、養護教諭の能力を指標化している。これは1人職であっても自己の実践を客観的に振り返り、評価し、目標設定を可能にしたものである。これまでに開催したスキルラダー研修会での演習から、経験の浅い養護教諭は、高度なラダーの示す実践のイメージが掴みにくく、そのため明確な目標を持ちにくいことがわかっている。例えば、新人養護教諭であれば、中堅に成長するには何をしたらよいかイメージしにくく、目標が持てないという実態がある。

そこで、オンライン研修（オンデマンド）であれば、時間や場所を問わず、研修が受けやすいこと、オンライン教材を蓄積して行けば、それを連動させたオープンソース型eラーニングシステム作りが可能であることに着目した。

スキルラダーで自己評価した後、高度なラダーの示す実践例のオンライン教材を見ることにより、実践イメージが掴みやすくなり、明確な目標設定がしやすくなるという仮説を立てた。本研究では、この仮説に基づき、オンライン教材を作成、検証し、オープンソース型eラーニングシステムを構築することを目的とする。研究期間中（1年間）にスキルラダー（11業務）のうち、健康相談についてのオンライン教材の開発と検証を行う。

次年度以降、残りの業務のオンライン教材の開発と検証を行い、順次、オープンソース型eラーニングシステムへの連動を計画している。

## 2. 方法

### (1) オンライン研修教材作成

共同研究者と協議を重ね試作を繰り返し作成した。

### (2) グーグルクラスルーム（以下クラスルーム）開設

対象は、共同研究者の養護教諭養成大学卒業生とその紹介を受けた養護教諭 35 名である。

(3) クラスルームに、スキルラダー（健康相談）（スプレッドシートで作成）を提示し、各自でスキルチェックを実施、提出させた。スプレッドシートでは、チェック項目数をゲージメーターにより視覚化した。

- (4) クラスルームにオンライン研修教材 3 本各 5 分程度を提示し、視聴させた。
- (5) 視聴後、匿名で以下の事後アンケート（フォームで作成）を実施させ、集計と分析を行った。
- (6) リアルタイムのディスカッション（Zoom によるおしゃべり会）を 2 ヶ月に 1 回実施した。
- (7) クラスルーム内に質問コーナーを設置した。（研究者との Q&A）
- (8) クラスルームでのストリーム機能の活用を実施した。（参加者同士の交流）
- (9) クラスルームでの掲示板を設置した。（情報・知識のアップデート）

### 3. 研究成果

クラスルームによるオンライン研修の提供（2024 年 8 月より開設）

- (1) スキルチェック（2024 年 8 月 1 日～8 月 17 日）

スキルラダー（健康相談）のスプレッドシートで参加者各自がスキルチェックを行い、自己の実践を客観的に振り返る機会を提供できた。

- (2) オンライン研修教材（2024 年 8 月 1 日～）

「健康相談：リストカットの子どもに対応せよ！」の視聴、各 5 分程度

番号	タイトル
0	中学女子リストカット事例
1	誰に報告しますか。
2	どう記録しますか。
3	子どもとどんな話をしますか。（作成中）
4	どんな支援が必要ですか。（作成中）

スキルチェックで自己のスキルの不足部分を把握した上で、高度なスキルラダーの示す実践例のオンライン教材を視聴することで、実践イメージを掴む機会を提供できた。具体的にステップアップのヒントを提示し、理解を促すことができたことで、明確な目標設定に繋がった。

- (3) オンライン研修の評価

事後アンケート実施。（2024 年 8 月 1 日～8 月 17 日）

グーグルフォームによる無記名の事後アンケートは、下記の項目について 6 段階（6：かなりそう思う～1 全くそう思わない）で尋ね、さらに自由記述で感想や意見を求めた。アンケートの回答者は 12 名であった。

	質問	平均値
ア.	研修に興味を持てた。	5.92±0.28
イ.	研修の内容を理解できた。	5.69±0.46
ウ.	自己の課題は明確になった。	5.50±0.35
エ.	この研修は職務の役に立つ。	5.83±0.37

全ての項目で平均値が 5.5 以上と高い評価が得られた。

自由記述では、「スキルラダーのチェックで自分のできること、できないことの確認ができた」「実務的な内容でとてもよかった」「短い動画をスマホでも見る事ができるため空き時間に見ることができた」などがあった。これらの結果から、作成したオンライン研修教材は、現職養護教諭のニーズに沿った内容であったと考えられる。

#### (4) リアルタイムのディスカッションの実施 (Zoom によるおしゃべり会)

教材テーマ (健康相談) に関する経験について交流することを目的に開催した。1 人配置であることから、孤立しやすいため、交流の場を設けることが大切と考えた。また、子育て中でも集まりやすい日時を模索し、日曜日の午後や、土曜日の夜の実施を試みている。1 回 90 分間とし、事例提供 20 分と 70 分の交流ディスカッションで構成した。

	日時	事例	事例提供者	参加人数
第 1 回	2024 年 8 月 18 日 (日) 14:00~15:30	中学女子リストカット	中学校養護教諭	9 名
第 2 回	2024 年 10 月 12 日 (土) 19:30~21:00	パーソナリティ障害の親に巻き込まれた	元養護教諭 現養護教諭養成 大学教員	9 名
第 3 回	2024 年 12 月 14 日 (土) 19:30~21:00	LGBTQ の児童生徒への対応は?	高校養護教諭	(未実施)
第 4 回	2025 年 2 月 8 日 (土) 19:30~21:00	学校における医療的ケア	特別支援学校養護教諭	(未実施)

各おしゃべり会後に、アンケート (Google フォーム) を実施し、以下の感想や意見を得た。

- ・校種や地域によって使えるリソースが異なり、他の市町の事例を聞いて自分のやり方もアップデートできた。
- ・他の養護教諭も自分と同じ悩みを抱えていると知り、心強く感じた。
- ・失敗体験を共有してもらえると、自分のことも話しやすくなると実感した。
- ・自分の学校ではない経験談をきき、もし、自分の学校で起こったら思い出すこと間違いなしだと思う。 など

おしゃべり会の目的である交流の場とすることについては達成できたと考えられる。また、オンライン研修での学びを活かした事例提供をすることにより、リアルタイムのディスカッションが深まり、研修とディスカッションの組み合わせによる相乗効果が得られたと考えられる。

#### (5) クラスルーム内に質問コーナーの設置 (研究者との Q&A)

クラスルーム内では参加者個人と、共同研究者との双方向のやり取りができるよう質問コーナーを設置したが現在のところ利用者はいなかった。質問コーナーを利用せず、研究者にチャットを送ってくる参加者は 3 名いたため、双方向のやり取りは行われた。

#### (6) クラスルームでのストリーム機能の活用 (参加者同士の交流)

参加者がストリームに書き込みをすると、他の参加者が答えるというやり方で、情報共有や、アドバイスが行われ、交流が行われた。時間を選ばず、いつでも交流できるという点は、1人配置の養護教諭にとって孤立化の予防となったと考えられる。「他地区ではどうしているか」という書き込みもあり、他の地域、他の学校とを繋ぐネットワークとしての機能もあった。

#### (7) クラスルームでの掲示板（情報・知識のアップデート）

週1回程度、研究者側が以下の情報提供を行なった。

- ・教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引き（文部科学省）の掲載
- ・自傷行為のある生徒やリスクを見落としされがちな生徒等への対応について（独立行政法人教職員支援機構）へのリンクの掲載
- ・学会の無料セミナー 一般社団法人 日本養護教諭教育学会「子どもたちのウェルビーイングを支える」などの紹介

各自で資料を読み、また、無料セミナーに参加した養護教諭もあり、掲示板が有効に機能していたことが伺えた。

以上のとおり、本研究においては、オンライン研修を用いて、スキルラダーによる自己評価、オンライン教材の提供、学びを深める交流の場の設定、自己研鑽のための情報提供を行なった。このプログラムにより、高度な実践例を学び実践イメージを掴むことができ、明確な目標設定に繋げることができたと考える。また、こうしたオンラインによる研修や交流は、時間と場所を選ばずに交流ができ、養護教諭同士のネットワークとして機能した。このことは1人配置における孤立化の予防に寄与できたと言える。今後は、他業務のオンライン教材の開発と検証を行い、順次、オープンソース型eラーニングシステムの充実を図っていきたい。

参考文献1) 養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する調査研究協力者会議議論のとりまとめ  
(2023)